

平成25年度
年次報告書



一般財団法人日本青年館

I. 公益活動

1. 青年活動振興事業

1) 活動家養成事業の開催（6月7日～8日：日本青年館）

青年活動を継続発展させていくためには、常に中心的な担い手となるリーダーを養成していくことが不可欠です。また、全国規模で活動をすすめていくために、全国の優れた活動事例にふれ合い、交流し、道府県の枠を超えて学びの場をつくっていくことが、リーダーを養成していくために極めて重要なことです。このような視点から、日青協では地域青年活動リーダーの養成をめざし、研修事業を行っています。

今年度は、青年団運動の歴史を学び、道府県団役員としての立ち位置を知ること、そして地域リーダーである道府県団役員を更に高めることを目的に日本青年館において14道府県より24名の参加者を迎えて開催しました。2日間にわたるプログラムを通して、青年団の概念や役割をはじめ、組織運営や強化・拡大のノウハウなどを参加者との語り合いと実践から学びました。

全体コーディネーター 廣瀬 隆人氏（宇都宮大学教授）

講師：水野 光四郎氏（元日青協事務局長）

2) 第62回全国青年大会の開催（11月8日～11日：東京体育館他）

全国青年大会は、講和条約発効を記念して1952（昭和27）年に第1回大会が開催され、以来、勤労青年のスポーツ・文化活動の発表と技能向上の場として、全国の青年団が中心となって毎年東京で開催しています。この大会は、一部の種目を除き国民体育大会や国際競技会などに出場した経験のある選手には参加資格がなく、地域で地道にスポーツや文化活動に携わっている青年が参加するものです。つまり、地域のスポーツ、文化活動の裾野を広げ、より多くの青年たちに活躍の場を提供するとともに、全国から集まった青年たちの交流と友好を深めることにも重点を置くことにより、平和で文化的な住みよい地域を創っていくことを目的にしています。

第62回目の全国青年大会は16のスポーツ・文化種目と、のどじまん・舞台パフォーマンスなどに2,171名の選手が参加し、スポーツと芸能文化に熱戦・発表を繰り広げました。

東京体育館での開会式には、昨年度に引き続き瑤子女王殿下にご臨席いただきおことばを賜りました。また、安倍内閣総理大臣からメッセージをいただいたほか、文部科学省から永山賀久審議官に櫻田義孝副大臣の祝辞を代読いただきました。交歓プログラムでは早稲田大学応援部のみなさんにチアリーディングを披露していただき、参加者からも好評でした。

なお、郷土芸能の部で優れた活動をしている団体に贈られる後藤文夫賞は、今年度は「矢駄獅子舞」を演じた石川県の矢駄青年団チームが受賞しました。今大会実施種目は以下のとおりです。

<スポーツ> バレーボール、バスケットボール、バドミントン、軟式野球、卓球、柔道、剣道、ボウリング、フットサル

<文化> 演劇、合唱、郷土芸能、写真展、生活文化展、将棋、意見発表
<交流プログラム> のどじまん大会、舞台パフォーマンス大会

3) 第59回全国青年問題研究集会の開催（3月7日～9日：日本青年館）

「青年問題研究集会」（青研集会）は、1950年代に日本青年団協議会が創造した、働く青年の生活課題解決を目指す学習・実践活動の集約の場としての集会です。1954（昭和29）年に、勤労青年の教育のあり方、考え方として「勤労青年教育基本要綱」を策定した日本青年団協議会は、青年の自主的学習活動として「共同学習」運動を全国に呼びかけました。共同学習運動は、仲間づくりと話し合い学習を重視し、生活や活動の身近な問題を語り合う中から共通の課題を見出し、共同の力によって課題解決の実践に取り組んでいくという、青年の主体性、自主性を重視した実践的学習運動です。このような共同学習運動の全国的集約と発展的展開を目指す場として、日本青年団協議会は1955（昭和30）年から「全国青年問題研究集会」（全国青研集会）を開催しています。

青研集会は、青年個人や青年組織を巡る問題を、取り組んだ実践活動に基づいてレポート化し、テーマごとに分科会を設定して議論します。助言者の力も借りながら参加者全体の討議によって問題の所在や社会的背景を明らかにし、再び地域で実践することで課題解決に努めることを目指しています。

今年度は18道県から99名（うち、道府県団司会者6名）の参加者を迎え、集会を開催しました。問題別集会は、「憲法」をテーマに立憲主義や集団的自衛権と個別的自衛権、また憲法がどのように変わっていくのかについて、明日の自由を守る若手弁護士会の会事務局長の早田由布子さんを招いて実施しました。「実践報告」では「仲間のちから」をテーマに掲げ、仲間、学習、地域とそれぞれの実践を通じた成果について報告いただきました。基調講演では「地域づくりは人づくり」と題し、福島県飯舘村村長の菅野典雄氏をお迎えし、原発事故を振り返りながら、人生における選択の大切さをお話いただきました。また、2日目からの分科会では、「リーダー」、「青年団活動」、「社会」をテーマとし、仕事をはじめ日頃の暮らしから地域活動、社会活動、組織運営など11分科会がつくられ、日々の暮らしにまつわることや活動上の成果や悩みについて討議を深めました。

4) 青年活動支援者フォーラムの開催

2007年から実施している、青年教育や青年活動の支援者どうしのネットワークづくりをねらいとした事業は、今年度は「青年活動支援者フォーラム」とし、全国青年問題研究集会と同時開催しました。募集にあたり青年団だけでなく公民館職員や自治体職員、また青年会館にも呼びかけ、様々な形で青年を支援する立場の方々が集まる場にすることをめざし、全国から15道県24名の参加者を迎えることができました。分科会では、杉並区で活動しているCAMOプロジェクトや滋賀県の出会いサポート事業を通じた青年たちとの関わり方について発表していただき、これらの事例をもとに現在の若者支援のあり方について議論を深めました。また、フィールドワークでは、社会教育センターと高円寺地域区民センターの複合施設である「セッション杉並」と国立オリンピック記念青少年総合センターを訪問し、施設の運営状況などを学ぶことがで

きました。本事業には昨年度同様に（特活）コミュニティワーク研究実践センター事務局長の穴澤義晴氏と、北海道大学大学院教授の姉崎洋一氏にコーディネーターとして関わっていただきました。青年教育や若者支援に携わる人たちが、都道府県の垣根をこえて経験を交流し、課題を共有する場にすることができました。

5) 全国地域青年実践大賞の開催

全国の優れた青年活動の取り組みに学びあい、それを顕彰することをねらいに、全国の青年団や教育委員会などを通じて呼びかけた「全国地域青年実践大賞」には、12道府県から20実践の活動事例の応募がありました。審査会では「青年団らしい活動がきちんと継承されている」と評価をいただきました。受賞ジャンル及び受賞団体は次の通りです。

◇実践大賞 活動に常時または定期的に取り組み、地域に大きく貢献した実践を行った1団体に表彰状並びに活動奨励金5万円を授与する。

受賞団体 高知県青年団協議会（高知県）

「いしはらの里ライトアップ2013（地域での「絆」づくり）」

◇準実践大賞 実践対象に次いで優れた実践に取り組んだ団体（2団体）に表彰状並びに活動奨励金3万円を授与する。

受賞団体 るべしべ留青太鼓（北海道）

「青年団活動から、地域芸能へ

～るべしべ留青太鼓の誕生とあゆみ～」

串間市青年団協議会（宮崎県）

「子ども事業 あたご祭り『おばけ屋敷』」

◇実践奨励賞 長期間にわたって取り組まれている実践や、新たな活動に取り組んだ実践など、上記二賞に準ずる団体（3団体以内）に表彰状を授与する。

受賞団体 長沼町青年団体協議会（北海道）

「青年学級を続けて」

あいとう青年団（滋賀県東近江市）

「第26回全日本あいとう4時間耐久三輪車レース」

綾川町青年会（香川県綾川町）

「子どもカーニバル」

◇田澤義鋪賞 田澤義鋪の実績に基づき、明正選挙運動、地方自治の発展や地域振興活動に取り組み、優れた成果を収めた団体に日本青年館より表彰状と活動奨励金5万円を授与する。

受賞団体 生田原ヤングパワー倶楽部（北海道遠軽町）

「生田原Y P Cかって（勝手）にシリーズから

第1回冬のけいおん楽祭への軌跡」

～小さな積み重ねと切れずに保った繋がりから新たな展開～

◇全国青年団OB会奨励賞 全国の青年団にとって励みとなるような組織強化拡大に顕著な実績を上げた団体に、全国青年団OB会より

表彰状と活動奨励金5万円を授与する。

受賞団体 岩崎地区青年会 虹色の会“絆”（岩手県北上市）
「岩崎地区納涼祭と福豆鬼節分会の実施」

◇全国青年団OB県議の会奨励賞 青年団活動に自信と誇りを持ち、地域に暮らす人たちの励みとなるような地域活動に顕著な実績を上げた団体に、全国青年団OB県議の会より表彰状と活動奨励金5万円を授与する。

受賞団体 石垣市青年団協議会（沖縄県石垣市）
「石垣市青年団協議会主催『青年文化発表会』」

6) 第44回北方領土復帰促進婦人・青年交流集会の開催

(7月13日～15日：根室市)

日本青年団協議会は1966（昭和41）年より北方領土返還要求運動に取り組み、1970（昭和45）年より婦人会の全国組織である全国地域婦人団体連絡協議会とともに、北方領土を望む納沙布岬での視察、北方領土問題の学習、元島民の返還への思いを伺うなどの内容で、北方領土復帰促進婦人・青年交流集会を開催してきました。また、北方領土返還要求署名運動、世論啓発のための全国キャラバンなどにも取り組み、日本青年団協議会は北方領土返還要求運動連絡協議会の議長団体も務めています。

今年度は、7都道府県から27名のが参加して第44回北方領土復帰促進婦人・青年交流集会を実施しました。集会ではビザなし交流参加者からの報告、元島民や運動関係者が加わったグループ別意見交換会、またビザなし交流で使用されている船舶「えとびりか」の内覧などを行い、領土返還運動の重要性を知る機会となりました。グループ討議では婦人会の皆さんと有意義な懇談ができました。

7) 青年団平和集会の開催（9月7日～8日：沖縄県内）

日本青年団協議会は結成当初より平和の問題を大切にしてきました。1954（昭和29）年のビキニ事件をきっかけとして国民に広がった原水爆禁止と被爆者援護の運動と連動し、青年団運動の柱として平和運動に取り組んでいくようになります。核兵器廃絶の署名運動や広島・長崎・沖縄の視察と学習、被爆者や戦争体験者の話を聞き、被爆・戦争の実相を継承していくことなどに、多くの若者が取り組みました。

今年度は、オスプレイの強行配備や繰り返される基地被害の現状を視察し、現状を学ぶことを目的に、沖縄県で青年団平和集会in沖縄を開催し、全国13道府県から29名が参加しました。集会では嘉手納基地と普天間飛行場の視察、また、嘉手納町の當山宏町長をお迎えし基地被害の実態についてお話いただいた後、婦人会の皆さんにも参加していただきグループディスカッションを行いました。参加者の大半は初めての沖縄訪問で、「報道にはない情報を知ることができた」「実際に沖縄の人たちの声を聞いて現状に触れることができた」といった声が寄せられたほか、「過去の戦争について学ぶ研修をしていきたい」「ブログでの情報発信、まずは新聞をしっかりと読む、色々な現地に赴く」など、平和集会を経て地域で実践する行動指針をつくるきっかけにもなりました。

8) 中華全国青年連合会との交流

日本青年団協議会は1956（昭和31）年より中華全国青年連合会との交流を行って

ます。今年度は二つの事業を青年交流事業として実施しました。

(1) 中国青年代表団受入事業の実施(12月5日～9日：東京都、宮城県)

中華全国青年連合会の張国来国際部副部長を団長とする青年代表団6名を招へいしました。歓迎宴会には在日本中国大使館の孫美矯参事官をはじめ日中友好団体など多数の来賓を迎えることができました。張団長は「交流の意味が今こそ問われている時はない。先輩たちの築きあげた歴史を振り返り、新たな一步を私たちが切りひらいていきたい」と述べました。また、代表団には都内のほか宮城県も視察し、宮城県団の多大な協力のもと、地元の歴史や文化に触れるだけでなく、被災地の現状を学ぶプログラムなどを企画しました。

代表団は以下の通りです。

団長	張国来(男)	中華全国青年連合会国際部副部長
秘書長	李小慧(女)	中華全国青年連合会国際部幹部
団員	陳強(男)	中国少年先鋒隊事業発展センター弁公室主任
団員	李雯璐(女)	中国少年児童新聞出版社総編集室幹部
団員	哈安邦(男)	中国青少年発展基金会希望小学校部幹部
団員	奥義兵(男)	内モンゴル天佐投資グループ会社取締役会長

(2) 日青協第22次植林訪中団の派遣

(8月3日～7日：中国河北省豊寧満族自治県)

長年にわたる中国の青年たちの交流の経験にたち、1992(平成4)年より軍事によらない国際交流と地球環境の保全という視点から、中華全国青年連合会の受入と協力のもと、内モンゴル自治区で沙漠の緑化事業に取り組んでいます。2001(平成13)年には日本政府が日中緑化交流基金を設立、日本青年団協議会も基金から助成を受け、内モンゴル自治区に加えて河北省豊寧満族自治県でも事業を行っています。

今年度は第22次植林訪中団(参加者14名)を河北省豊寧満族自治県に派遣しました。植林地では、これまでに植林してきた松や杏などの植物が生い茂っている様子を確認したほか、現地の青年連合会からは木々の活着率が約80%と非常に高く、事業として着実に成果をあげていることが報告されました。当日は政府関係者が出迎える中、現地の青年連合会とボランティア、住民らとともに、約1ヘクタールに油松(あぶらまつ)を800本植えました。

団員は以下の通りです。

団長	戸嶋幸司	(日本青年団協議会副会長)
副団長	久保田秀樹	(日本青年団協議会監事)
顧問	久保田満宏	(元日本青年団協議会会長)
顧問	松浦利明	(元日本青年団協議会会長)
顧問	吉田恵三	(元日本青年団協議会会長)
秘書長	早川麻登	(日本青年団協議会事務局)
団員	渡部明日香	(北海道青年団体協議会事務局長)
団員	佐藤竜太	(福島県連合青年会常任理事)
団員	南野可奈子	(滋賀県青年団体連合会理事)
団員	長嶺いずみ	(元糸満市武富青年会会員)
団員	新田めぐみ	(日本青年団協議会事務局)

技術者 大貫都志男（（特活）地球緑化センター）
技術者 樋口 拓（（独）国立青少年教育振興機構）
技術者 郝 建国（内モンゴル大学教授）

9) 日韓青少年指導者交流事業の実施

（1月13日～16日：韓国ソウル市、テジョン広域市）

韓国青少年団体協議会からの招へいを受け、立道会長と鳥澤社会部長を韓国に派遣しました。昨年5月、韓国青少年団体協議会のチャ・グァンソン会長（当時）が日本を訪問した際、今後、日本青年団協議会との定期的な相互交流事業を実施していきたいと相談を受け、当時の執行部で協議した結果、当面2年間両国の相互交流を試行のうえ検討していくことを確認し、今回の訪韓につながりました。訪問中は韓国スカウト連盟や国家平生教育振興院を訪問し、韓国の青少年活動の現状や我が国の社会教育分野にあたる平生教育の政策内容について学びました。また、テジョン広域市では、地元青少年団体の指導者との意見交換会が行われ、地域青年団活動の現状を報告しました。

2. 第62回全国民俗芸能大会の開催（11月23日：日本青年館大ホール）

全国各地に伝えられる民俗芸能は、各地の風土と生活の中で生まれ、地域の人々によって歴史的に育まれてきたものです。それらは国民の生活の推移を物語る貴重な民俗文化財でもあります。この大会は、このような各地の貴重な民俗芸能を舞台上で公開し、民俗芸能の重要性を多くの人々に認識してもらおうと開催してきました。

歴史をひもとくと、日本で初めて地域の芸能を舞台上で紹介したのが日本青年館のこけら落としとして開催された「郷土舞踊と民謡の会」で、1925(大正14)年のことでした。戦後、この流れを継承してきた当事業は、通算すると72回目となります。これまでに460あまりの芸能を紹介してきました。出演者にとっては大会出場が大きな自信につながり、これを契機に芸能の保存の機運も高まり大きな成果をあげています。また、早くからこうした芸能の記録保存に取り組んできたのも当大会でした。

今年の第62回全国民俗芸能大会は、11月23日、全国民俗芸能保存振興市町村連盟との共催により、日本青年館大ホールにおいて盛会裡に開催しました。今回は、下記4団体が、いずれも歴史と伝統の重みを感じる貴重な演目を披露しました。研究公演は福岡県の豊前神楽にお願いしました。

福島県二本松市	広瀬熊野神社御田植祭保存会	「広瀬熊野神社の御田植」
和歌山県御坊市	戯瓢踊保存会	「 ^{けほんおどり} 戯瓢踊」
山梨県甲州市	一之瀬高橋春駒保存会	「一之瀬高橋の春駒」
福岡県豊前市	黒土神楽講	「豊前神楽」

〈企画委員〉

山路	興造	民俗芸能学会代表理事
西角井	正大	前実践女子大学大学院教授
吉川	周平	京都市立芸術大学名誉教授
星野	紘	元文化庁伝統文化課主任調査官
齊藤	裕嗣	前文化庁伝統文化財課主任調査官
宮田	繁幸	文化庁伝統文化課主任文化財調査官
俵木	悟	成城大学文芸学部准教授
神田	竜浩	（独）日本芸術文化振興会 国立劇場第二制作課主任

3. 「The Seinen」と月刊誌「社会教育」の発行

1) 「The Seinen」の発行

今年度も平成26年3月15日付けで年1回発行しました。特集のテーマは、「自立した市民をめざす取り組み、「-地域をつなぐ若者たち-」と位置づけ、今年度の全国の青年団・青年の活動実態とこれからの課題を中心とした内容としました。このところ日本において「シチズンシップ教育」や「18歳選挙権」についてクローズアップされています。あまり聞き慣れない「シチズンシップ教育」ですが、その歴史と世界や日本での取り組みを紹介し、なぜ今、シチズンシップ教育なのか、必要性を考えてみました。

また、今や世界的潮流の18歳選挙権ですが、「先進国」といわれる日本においては、いまだに実施が困難な状況です。若者を次世代の担い手として本気で位置付け転換のキーワードにしていくべき時代に来ています。明日の日本を担う若者たち、全国の地域で人々をつなぐ若者たち。「シチズンシップ教育」、「18歳選挙権」は若者の成長にとって共に大切なもの必要なものであることを、内外の事例を紹介し早期実施等へにむけて考えてみる内容にしました。

[内容]

- 1, つながりはじめる青年たち ——悩み考える青年たちが地域をつくる！！ ——
日本青年団協議会社会部長 鳥澤文彦
- 2, 18歳選挙権が青年を自立させる、—「若者未熟論」をのり越えて—
放送大学教授 宮本みち子
- 3, シチズンシップ教育とは？ —自立した大人になるために—
東京大学大学院教授 小玉重夫
- 4, 【実践紹介】これからの社会教育 青年施設の新たな取り組み
—香川と岡山県などの事例から—
- 5, 【実践紹介】山本瀧之助に学ぶ沼隈町 —生誕140周年を迎えて—
山本瀧之助に学ぶ会実行委員会 上田靖士
- 6, 【実践紹介】アフリカ マラウイでの経験
—日本も元気にする青年海外協力隊—竹内綾子さんの実践
- 7, 青年館・青年団いんふおめーしょん

2) 月刊誌「社会教育」の発行

平成25年度は、月刊誌「社会教育」を12回発行しました。平成25年度の雑誌「社会教育」特集テーマは以下のとおりです。また、書籍については、在庫する書籍を継続して販売しました。

平成25年度 「社会教育」特集テーマ

- 2013-04月号 これまでの発想を変えて社会教育をアピールする
- 2013-05月号 学校教育との連携・協働による地域コミュニティの形成
- 2013-06月号 社会関係資本と社会教育の人材育成
- 2013-07月号 大学開放と社会教育
- 2013-08月号 「カフェの学び」の魅力とは

- 2013-09月号 企業と社会教育の関係はこれからどうなっていくのか
- 2013-10月号 イベントが社会教育を元気にする
- 2013-11月号 国際成人力調査とおとなの学び
- 2013-12月号 成人の学びの場としての公民館
- 2014-01月号 社会教育の機能・役割の社会的共有
- 2014-02月号 出番です！ 青少年団体
- 2014-03月号 平成25年度の社会教育・生涯学習から26年度への展望

4. 図書・資料センター

日本で唯一、戦前・戦後期の地域青年団活動資料を所蔵する当館の図書・資料センターは、財団設立4年後の1925（大正14）年に建物の竣工とともに付設されました。以来、広く一般に公開してきましたが、とりわけ社会教育関係者、大学教師や大学院生などの研究者、自治体史編さん関係、NHKなどテレビ関係者など多くの方々に利用されてきました。

市町村合併、行財政改革や青年活動の低迷などから各青年団では事務所移転や縮小などで活動資料の保存が困難になってきており、今年度は大阪府、愛媛県などの青年団資料を受け入れました。

また、青年館移転に伴う、資料の整理と保管に関する準備を進めています。

5. 文化事業

1) ウィーン・ピアノデュオ・クトロヴァッツ公演交流

全国各地の方々に地元で一流の音楽に触れる機会を提供することを目的に、ヨーロッパを中心とした海外からすぐれたアーティストを招聘し、全国的なコンサートツアーを実施しています。今年度も世界屈指のピアノデュオ奏者で、ウィーン国立音楽大学の教授も務めるエドワード&ヨハネス・クトロヴァッツの両名を9月19日～10月8日の日程で招聘し、各地で公演・交流を実施しました。

9月20日、ヤマハホール（銀座）での田中圭子PDKファンクラブ会長主催の公演を皮切りに、秋田県わらび座、八郎潟町、由利本荘市、山口県長門市、埼玉県松伏町が公演を主催。どこの会場でも、遠方から足を運んでくださったお客様が多く、約20年にわたるコンサート活動によって、各地に熱心なファンを増やしてきたことがうかがえました。



上：秋田県由利本荘市では、1,100席のホールが満席に
下：山口県長門市での中学生対象の公演で、クトロヴァッツの伴奏で「ふるさと」を合唱する中学生

全7公演の公演地は以下のとおりです。

()内は主催団体。

9月20日(金) 東京都/ヤマハホール (PDKファンクラブ会長・田中圭子さん主催)

9月21日(土) 秋田県/田沢湖芸術村 わらび劇場 (わらび劇場)

9月22日(日) 秋田県/八郎潟町農村環境改善センター (八郎潟文化村協議会)

9月29日(土) 秋田県/由利本荘市文化交流館カダーレ

(由利本荘市・由利本荘市教育委員会・小松音楽兄弟顕彰会・カダーレ自主事業実行委員会)

10月3日(木) 山口県/長門市山口県立劇場ルネッサながと

((公財)長門市文化振興財団)

10月6日(土) 埼玉県/松伏町 田園ホール・エローラ

(エローラ運営委員会・松伏町委員会)

2) 山中湖国際音楽祭2013の開催(9月27日~29日:山中湖畔荘清溪)

優れた音楽芸術鑑賞の機会を多くの方に提供し、文化振興と若手音楽家の発掘・育成、開催地周辺の地域活性に寄与することを目的に2007年から山中湖国際音楽祭を開催しています。東西音楽の融合をテーマに、3日間に全4公演を実施しました。

今回も「世界最高峰のピアノデュオ」と呼ばれるエドワード&ヨハネス・クトロアツ兄弟を中心に、オーストリアを拠点に第一線で活躍する演奏家5人と、日本の邦楽演奏家3名を招聘。クラシックの名曲からジャズや現代音楽まで、多彩なプログラムで構成される4コンサートを楽しんだお客様からは、「シネマ音楽の美しい旋律が、心に響いた」「日本の楽器と西洋の楽器がこんなに自然に融合して、繊細さと迫力に鳥肌がたつようだった」といった声が寄せられました。また、今回も地元の小中学生や教員を招待し、世界レベルの音楽に身近に触れる機会を提供しました。



過去の来場者が家族や友人を連れてリピート参加するケースが多いことや、出演者との懇親パーティーが音楽を通じた国際交流の場として人気を集めていることから、「アットホームな雰囲気の中で世界レベルの演奏が楽しめる」音楽祭として、定着してきました。期日、出演者、来場者数等の概要は以下のとおりです。

主催：財団法人日本青年館、株式会社ニッセイ、山中湖国際音楽祭実行委員会

後援：文化庁、オーストリア大使館、山梨県教育委員会、山中湖村、山中湖村教育委員会、山中湖観光協会、富士急行株式会社、社団法人全日本ピアノ指導者協会、読売新聞東京本社、NHK甲府放送局、山梨日日新聞社、山梨放送、テレビ山梨

協賛：ヤマハ株式会社

協力：Tanaka Keiko Office、PDK 200 Club Japan、スピカ

開催期日：2013年9月27日(金)~29日(日)

出演者：

〔オーストリア 5名〕

ヨハネス・クトロヴァッツ (Johannes Kutorowatz)	音楽監督・ピアノ
エドワード・クトロヴァッツ (Eduard Kutorowatz)	ピアノ
クリスチャン・ショル (Christian Scholl)	ヴァイオリン
シンシア・リャオ (Cynthia Liao)	ヴィオラ
ルイス・ゾリタ (Luis Zorita)	チェロ

〔日本 3名〕

米澤 浩	尺八
三山 正寛	津軽三味線
熊沢栄利子	箏

来場者数：3日間4コンサートで520名。

27日(金/19:00) タンゴの歴史	80人
28日(土/19:00) シネマファンタジー	180人
29日(日/11:00) ウィーンのサロン音楽	120人
29日(日/16:00) 山中湖国際音楽祭2013フィナーレ	140人

6. 高校オーケストラ活動支援事業

日本青年館の施設を活用してオーケストラ活動を通じた青少年の育成に取り組んで20年目を迎えました。「吹奏楽は全国的な発表・交流の場があるのに、オーケストラの場合はそうした場がない。ぜひそのような場を…」という高校の先生方の声を受けてのスタートでした。以来、ティンパニやコントラバスなどの大型楽器の配備・充実に努めるとともに、平成10年には全日本高等学校オーケストラ連盟(事務局：日本青年館)を組織し、全国的なネットワークづくりにも取り組んできました。現在、連盟には全国95の高校が加盟しています。

今年度は、その連盟と協力して以下の3つの事業に取り組んできました。

1) 第14回全国高等学校オーケストラ・サマークリニックの開催

(8月16日～19日：山中湖畔荘清溪)

演奏技術のレベルアップと音楽を通じた仲間づくりを目的に、全国の高校生に呼びかけて今回で14回目の開催になります。今回も夏休み期間中に3泊4日の日程で、関東地方を中心に26校から229名の高校生が参加して開催しました。

内容は、27名の講師による楽器の各パート毎に分かれての基礎練習、多様な編成によるアンサンブルやオーケストラ合奏の練習、最終日には3日間の成果を発表し合うアンサンブルとオーケストラの発表会を行いました。盛りだくさんの内容が参加者に大好評です。

昨年に引き続き、指揮者の河地良智先生による指揮法講座を実施し、18名の生徒が受講しました。

*参加者出身校は以下のとおりです。

〈福島県〉県立福島高等学校 〈茨城県〉清真学園高等学校
〈栃木県〉県立鹿沼高等学校 〈群馬県〉県立中央中等教育学校 鹿島学園高等学校
〈埼玉県〉県立所沢高等学校 県立浦和西高等学校 〈千葉県〉県立千葉高等学校 聖徳大学附属女子中学校・高等学校 県立千葉女子高等学校 成田高等学校・附属中学校

県立船橋高等学校 県立小金高等学校 市原中央高等学校
〈東京都〉明治大学附属中野中学校高等学校 品川女子学院 江戸川女子高等学校 目黒星美学園高等学校 国立音楽大学附属高等学校
〈神奈川県〉県立横浜平沼高等学校 森村学園中高等部 湘南白百合学園高等学校
〈新潟県〉県立高田高等学校 〈長野県〉長野高等学校 松本蟻ヶ崎高等学校
〈京都府〉京都女子中学・高等学校 〈熊本県〉県立御船高等学校

2) 第20回全国高等学校オーケストラフェスタの開催

(12月26日～29日：日本青年館大ホール)

全国の高等学校のオーケストラ部、弦楽部等を対象に、その技術力・表現力の向上と交流を深めることを目的に、全日本高等学校オーケストラ連盟との共催で開催しました。全国から70校のオーケストラ部や弦楽部の生徒たち約4,000人が参加し、参加校数・参加生徒数とも過去最高を記録しました。

フェスタはこれまで、大きく分けると3つの内容で構成してきました。メインは各学校の演奏です。二つ目はそれぞれの学校から選抜された生徒による演奏（オーケストラ、弦楽アンサンブル）で、ふだん学校ではなかなか演奏できないような大曲に挑戦しようというものです。三つ目は生徒同士の交流会で、音楽を愛する仲間のネットワークを大きく広げる場になっています。

また、今回は第20回記念式典を行い、文部科学事務次官、高文連全国器楽管弦楽専門部会長のご臨席の下、高校オーケストラのOBOGと現役生徒による記念演奏の披露や、これまでお世話になった方々への感謝状贈呈、20回連続出場校への表彰等を行いました。

「選抜合奏」では、各校の代表メンバーが集まり臨時で編成される「選抜オーケストラ」「選抜弦楽アンサンブル」の演奏を披露しました（演奏曲目と指揮者・ソリストは下記の通り）。初めて一緒に演奏するメンバーが、限られたリハーサル時間の中で集中して作り上げた演奏は、多くの参加者の刺激となりました。

<オーケストラ>

演奏曲目：ストラヴィンスキー作曲・バレエ組曲「火の鳥」（1919年版）

指揮者：河地良智（洗足学園音楽大学 大学院 副学長）

<弦楽アンサンブル>

演奏曲目：チャイコフスキー作曲・弦楽六重奏曲“フィレンツェの思い出”（弦楽合奏版）第2楽章

指揮者：大川内 弘（元日本フィルハーモニー交響楽団コンサートマスター）

出場校（74校）は以下のとおり。（ ）内数字は出場回数です。

〈宮城県〉 宮城学院高等学校(14) 宮城第一高等学校(14) 仙台第一高等学校(11) 富谷高等学校(8)

〈福島県〉 県立福島高等学校(18) 県立橘高等学校(12) 県立郡山商業高等学校(8)

〈茨城県〉 清真学園高等学校・中学校(18)

〈栃木県〉 県立栃木女子高等学校(10) 県立鹿沼高等学校(8)

〈群馬県〉 県立桐生女子高等学校(17) 県立中央中等教育学校(7)

〈埼玉県〉 県立浦和西高等学校(18) 春日部共栄中学高等学校(20) 県立川越女子高等学

校(10) 浦和明の星女子中学・高等学校(7)

- 〈千葉県〉 県立千葉中学校・高等学校(18) 国府台女子学院中学・高等部(14) 千葉市立稲毛高等学校・附属中学校(18) 聖徳大学附属女子中学校・高等学校(20) 県立千葉女子高等学校(20) 県立津田沼高等学校(14) 県立幕張総合高等学校(16) 成田高等学校(12) 県立船橋高等学校(11) 県立小金高等学校(4) 市川中学校・高等学校(2) 東邦大学付属東邦高等学校(1)
- 〈東京都〉 都立青山高等学校(16) 聖心女子学院(14) 明治大学附属中野中学高等学校(18) 都立日比谷高等学校(9) 品川女子学院(9) 都立駒場高等学校(5) 江戸川女子中学高等学校(10) 目黒星美学園中学校・高等学校(4) 都立三田高等学校(3) 田園調布学園中等部高等部(2) 国際基督教大学高等学校(12) 明星学園中学校・高等学校(19) 明星中学高等学校(19) 玉川学園(5) 恵泉女学園中学・高等学校(2) 都立西高等学校(1) 大妻多摩中学高等学校(1) 都立南多摩中等教育学校(1)
- 〈神奈川県〉 横浜英和女学院中学高等学校(17) 神奈川大学附属中・高等学校(11) 森村学園中高等部(8) 関東学院中学校高等学校(7) 県立川和高等学校(5) 聖光学院中学校高等学校(4) 慶應義塾湘南藤沢中等部・高等部(3) 日本女子大学附属高等学校(2)
- 〈新潟県〉 県立高田高等学校(8)
- 〈長野県〉 長野高等学校(18) 上田高等学校(13) 長野西高等学校(5) 須坂高等学校(5) 屋代高等学校(5) 小諸高等学校(8) 松本秀峰中等教育学校(1)
- 〈岐阜県〉 県立大垣南高等学校(4)
- 〈静岡県〉 浜松開誠館中学校・高等学校(10) 静岡県西遠女子学園(8) 県立清水南高等学校・同中等部(4)
- 〈愛知県〉 安城学園高等学校(19)
- 〈京都府〉 京都女子中・高等学校(18) ノートルダム女学院中学高等学校(2)
- 〈大阪府〉 府立清水谷高等学校(5) 府立高津高等学校(2)
- 〈岡山県〉 県立岡山朝日高等学校(10)
- 〈広島県〉 広島大学附属中・高等学校(11) 山陽女学園中等部・高等部(5)

3) 全日本高等学校選抜オーケストラ・オーストリア公演2014の実施

(平成26年3月23日～4月1日：オーストリア・リンツ、ザンクトゲオルゲン、ウィーン)

全国の音楽を愛する高校生により選抜オーケストラを結成し、オーストリアでコンサートと交流会を行うことを通じて、一人ひとりの音楽性の向上と国際性を育てることを目的に毎年春休み期間に実施しており、今年度は第18回目の海外派遣となりました。2月8日～9日、3月23日～24日の2回の練習合宿を経て、3月25日～4月1日の日程でオーストリアを訪問しました。参加者は、全国25の高校・中学校から41人の生徒と、応援団・引率教諭・事務局等含め50人でした。

今回の演奏旅行では、3月27日にザンクトゲオルゲンのオーバーエステライヒ州立音楽学校にて、同校オーケストラとの合同で、一般向けコンサートを開催しました。

28日にリンツ・ブルックナーハウス、リンツ市音楽学校のオーケストラとの交流会(第1部：コンサート／第2部：文化交流)を開催しました。

2回のコンサートとも多数の来場者があり、演奏も大成功し、無事に終了しました。その後ウィーンに移動し、市内を視察しました。ウィーン楽友協会で行われたウィーン・フィルハーモニー交響楽団の演奏会を聴きに行く機会にも恵まれました。全ての日程を終えて、4月1日に全員無事に帰国しました。コンサートの詳細は下記のとおりです。

(1) コンサート

①3月27日 19:00～ 本コンサート

会場：オーバーエステライヒ州立音楽学校 ニコラウス・アーノンクール・ザール

(i) オーバーエステライヒ州立音楽学校オーケストラの演奏

指揮：マティアス・シュラガー

演奏曲目

Emil Waldteufel / Espana

Richard Frost / Fiddel, Fidel, Fiddel

Traditional / Scarborough Fair

Richard Frost / Rockhound

G. F. Handel / Alla Hornpipe aus der Wassermusik

Abba / Medley

(ii) 日本の選抜オーケストラの演奏

指揮：河地 良智 (洗足学園音楽大学 大学院 副学長)

演奏曲目

ベートーヴェン作曲／エグモント序曲

ビゼー作曲／アルルの女第2組曲より3. メヌエット

ハチャトゥリアン作曲／仮面舞踏会より4. ロマンズ

モーツァルト作曲／交響曲第41番より第3楽章 メヌエット

モーツァルト作曲／交響曲第39番より第3楽章 メヌエット

滝廉太郎作曲／荒城の月

成田為三作曲／浜辺の歌

②3月28日 14:00～ 交流コンサート

会場：リンツ・ブルックナーハウス 中ホール

第一部：コンサート

(i) 選抜オーケストラの演奏

指揮：河地 良智 (洗足学園音楽大学 大学院 副学長)

演奏曲目：

ベートーヴェン作曲／エグモント序曲

ビゼー作曲／アルルの女第2組曲より3. メヌエット

ハチャトゥリアン作曲／仮面舞踏会より4. ロマンズ

モーツァルト作曲／交響曲第41番より第3楽章 メヌエット

滝廉太郎作曲／荒城の月

成田為三作曲／浜辺の歌

(ii) 合同演奏

岡野貞一作曲／故郷

J. シュトラウス I 世作曲／ラデツキー行進曲

(iii) リンツ市音楽学校オーケストラの演奏

ジョン・マイルズの作品より

モーツァルト作曲／交響曲第36番「パリ」より第1楽章

第二部：文化交流

同会場のロビーにて日本の選抜オーケストラのメンバーが、リンツ市音楽学校の生徒に日本の書道、浴衣、日本の遊びを紹介しました。

(2) 参加者出身校 (全国24校より41人の生徒が参加)

- 〈北海道〉 札幌西高等学校
- 〈栃木県〉 宇都宮女子高等学校
- 〈埼玉県〉 西武学園文理高等学校 浦和明の星女子中学校
- 〈千葉県〉 成田高等学校 県立船橋高等学校
- 〈東京都〉 都立青山高等学校 都立日比谷高等学校 都立駒場高等学校 目黒星美学園高等学校 都立西高等学校 恵泉女学園高等学校 国際基督教大学高等学校 東京家政学院高等学校 早稲田中学校 中村高等学校 創価高等学校 聖心女子大学
- 〈神奈川県〉 県立横浜国際高等学校
- 〈長野県〉 長野高等学校 上田高等学校 小諸高等学校
- 〈京都府〉 京都女子高等学校
- 〈岡山県〉 県立岡山城東高等学校

7. 第18回清溪セミナーの開催 (11月13日～15日：日本青年館)

若手の地方政治家の研修の場をつくろうとの声を受け、青年団出身の若手政治家の手によって平成9年2月に第1回目が開催されて以来、今年度で18回目を迎えました。

この清溪セミナーには大きな特色が三つあります。一つは、各ブロックから選出された実行委員による自主的な運営であること。二つ目は、参加者の声を活かし時宜を得たテーマを設定し、専門の講師をお招きしていること、そしてその講師の先生方の地方政治家を育てたいという情熱的な姿勢が共感を呼び合っていること。三つ目は、全く超党派であること、があげられます。

今年度は7月6日～7日に宮城県仙台市において13名が参加し、名取市、南三陸市、丸森町、岩沼市、亘理町、山元町などの被災地を周り、復興状況について視察しました。その後宮城県青年会館において実行委員会を開催しました。

今セミナーには、24都府県から80名が参加しました。講座及び講師は以下のとおりです。

講座1 「人口減少社会における地域経営」

福嶋浩彦 (中央学院大学社会システム研究所教授)

講座2 「震災復興と地域コミュニティの再生」井口経明 (宮城県岩沼市長)

講座3 「教育委員会は地域コミュニティにとって必要なのか」

コーディネーター：中西茂 (読売新聞東京本社調査研究所主任研究員)

パネリスト：工藤一徳 (福岡県自治振興組合専門員)

パネリスト：工藤日出夫 (生涯学習ゆめ・みらい研究所主宰)

講座4 「日本の教育委員会制度の本質：『民主主義』対『中立性・継続性』」

岡本 薫 (政策研究院大学教授)

講座5 「2014年の政治を予測する」福岡政行 (白鷗大学教授)

特別講座「ヤンキー先生の教育再生論」義家弘介 (衆議院議員)

講座6 「分権改革と首長、議会の変化」富野暉一郎 (龍谷大学政策学部特任教授)

8. 第69回田澤義鋪記念会について（11月13日～15日：日本青年館）

田澤義鋪記念会では、11月8日、全国青年大会に合わせて開催しました。日青協助言者をされてきた中央大学名誉教授の島田修一先生に「社会教育のこれからと田澤義鋪」のテーマで記念講演をしていただきました。講演では、田澤先生が昭和15年に貴族院で政府の政治姿勢を厳しく叫弾された質問演説にふれ、「自分たちの力で自主的に日本を創っていこうという田澤精神と、今日の政治状況はかけ離れている。学ぶ機会が保障され、学ぶ人も助ける人も高め合う関係を社会教育でつくっていかなくてはならない」と話されました。

9. 国際交流活動

1) 中日青年交流センターとの交流

中日青年交流センターは、1984年、当時の中曽根康弘内閣総理大臣と中国の胡耀邦総書記との共同発意によるもので、日中友好21世紀委員会が、その建設をそれぞれの政府に提唱し、日本政府の無償資金協力と中国政府の資金により1991年共同プロジェクトで建設された施設です。

以来、日本青年館は施設の運営等について支援するため、中日青年交流センターから研修生を受け入れるなど施設間の交流を続けてきました。今年度の交流は以下の通り、相互に訪問・交流し、相互理解と友好を深め合いました。

(1) 中日青年交流中心幹部職員訪日団の受入れ（4月17日～22日）

今年度は、楊立華中日青年交流センター副総経理を団長とする職員15名を招聘しました。一行は、滋賀県青年会館の岩永理事長はじめ役職員による歓迎会で出迎えていただき、翌日は奈良市東大寺を見学。富山県魚津市では青年団出身の澤崎市長、久保田評議員（魚津市議会議員）にお世話いただきました。その後静岡県熱海市、山中湖畔荘清溪、日本青年館、千葉県木更津市を訪れ、無事帰国しました。訪日団の名簿は以下のとおりです。

団長	楊立華	中日青年交流中心	副総経理
副団長	于新林	中日青年交流中心	労組主席兼総経理弁公室主任
秘書長	李偉	中日青年交流中心	総経理弁公室副主任
通訳	潘明宇	中日青年交流中心	日本事業部職員
団員	丁穎	中日青年交流中心	二十一世紀飯店財務部職員
	催強	中日青年交流中心	二十一世紀飯店飲食部職員
	馬春梅	中日青年交流中心	二十一世紀飯店総合部職員
	張進	中日青年交流中心	二十一世紀飯店前庁部職員
	李春鵬	中日青年交流中心	教育研修部職員
	張曉曦	中日青年交流中心	世紀演出公司職員
	李文華	中日青年交流中心	人力資源部職員
	趙英	中日青年交流中心	財務部職員
	郝建民	中日青年交流中心	総務部職員
	呉宝忠	中日青年交流中心	工程部職員
	孟聞欣	中日青年交流中心	二十一世紀飯店保衛部職員

(2) 日本青年館訪中団の派遣（12月2日～9日）

中日青年交流センターからの招待を受け、全国青年会館協議会との共催により、山本日本青年館常務理事を団長とする日本青年館訪中団15名を北京

市、雲南省昆明・大理、江蘇省南通、香港の旅に派遣しました。中日青年交流センターの新しい主任に孫俊波氏（1968年生まれ、46歳。前職は共産主義青年団傘下の全国青少年宮幹部）が就任し、山本団長と昨今の日中関係や今後の相互交流について意見交換しました。訪中団の名簿は以下のとおりです。

団長	山本信也	(財) 日本青年館常務理事
秘書長	江口芳人	(財) 日本青年館総務課長
団員	國廣京子	(一財) 北海道青年会館評議員
	畠山 勲	(財) 日本青年館維持会員
	畠山政子	(財) 日本青年館維持会員
	小松倫人	(株) ニッセイ専務取締役
	小松和代	(株) ニッセイ専務夫人
	阿久津智映子	(株) ニッセイ社員
	椎名真紀	(株) ニッセイ社員
	岩永友佳子	(一財) 滋賀県青年会館理事長夫人
	奥村いつ子	(一財) 滋賀県青年会館維持会員
	中西宏一	(一財) 滋賀県青年会館維持会員
	中西朋子	(一財) 滋賀県青年会館維持会員
	内山政夫	(一財) 防長青年館維持会員
	村上嘉彦	(一財) 防長青年館維持会員

10. 関連事業

1) 全国青年会館協議会活動

各県における青年団運動の拠点としての役割を担う青年会館の建設は、昭和25年2月の佐賀県青年会館がスタートでした。その後、各地に青年会館の建設運動が起こり、現在21の都道県に青年団の手による青年会館が建設されています。それらの青年会館同士の連絡協調と青年団体の振興、地域社会の発展を図ることを目的として、全国青年会館協議会が組織され活動しています。

主な活動内容は、財団運営に関わる研修、青年団をはじめとする青少年団体への支援、施設運営のノウハウの相互交換など多岐にわたっています。また、中日青年交流センターとの交流など、国際交流も行い施設の運営等に役立てています。今年度は以下の活動を展開してまいりました。

(1) 総会〈6月9日～10日：栃木県青年会館〉

今年の総会では、平成24年度の事業報告・決算及び役員選出（2年の任期）及び平成25年度の事業計画・予算を承認・決定しました。翌日は足尾銅山、日光を視察し解散しました。来年度の総会は防長青年館での開催が決定しました。

全国青年会館協議会役員担当会館（平成25～26年度）

会長	小里 貞利	(日本青年館理事長)
常任理事	山本 信也	(日本青年館常務理事)
理事	岡 泰一	(北海道青年会館理事長)
理事	佐藤 光保	(岩手県青少年会館理事長)
理事	横山 陽一	(栃木県青年会館理事長)
理事	青山 秋男	(愛知県青年会館理事長)
理事	岩永 峯一	(滋賀県青年会館理事長)

理事	大西	倉雄	(防長青年館理事長)
理事	大坪	勇郎	(佐賀県青年会館理事長)
監事	三浦	善治	(秋田県青年会館理事長)
監事	山崎	栄一	(福井県青年館理事長)

1) 感謝状

伊藤武夫氏(福井県)

昭和47年度全国青年会館連絡協議会結成時より、平成24年度まで役員として在職41年。

福井県青年館会長。昭和54年度より平成13年度まで23年間福井県青年会館理事長を務めた。

長谷川 章悦氏(青森県)

平成5年度より平成24年度まで20年間当会の監事を務めた。

昭和57年度より平成24年度まで31年間青森県青年会館館長。

坪 健男氏(茨城県)

平成13年度より平成24年度まで12年間当会の監事を務めた。

平成12年度より平成24年度まで13年間茨城県青少年会館理事長。

2) 表彰状

横山 陽一氏(栃木県)

一般財団法人栃木県青年会館理事長。会館役員として36年にわたり会館発展に努めた。

柴田 昌志氏(栃木県)

一般財団法人栃木県青年会館事務局長。平成3年に青年会館に採用され、22年にわたり、会館運営に寄与。

齋藤 信男氏(栃木県)

一般財団法人栃木県青年会館総務課長。平成2年に会館に採用され、23年にわたり、会館運営に寄与。

遠藤 徳住氏(栃木県)

一般財団法人栃木県青年会館営業課課長代理。平成4年に会館に採用され、21年にわたり、会館運営に寄与。

内山 政夫氏(山口県)

一般財団法人防長青年館の役員として昭和59年より会館運営と青年団発展のために寄与。本年度一般財団への移行に伴い、29年に及ぶ役員を勇退。

於土井豊昭氏(山口県)

財団法人防長青年館の事務局長として平成17年に退職。昭和56年から青年館の役員を務めたのち、昭和60年に業務課長として事務局入り。28年にわたり館運営と青年団育成に寄与。

(2) 理事長会〈平成25年10月15日～16日：日本青年館〉

今年度の理事長会には11会館より17名が参加しました。会議では日本財団、宝くじ協会、日本JKA、年賀葉書配分、ニッセイ財団等からの補助、助成の内容について

て意見交換しました。翌日は秩父宮記念スポーツ博物館を視察しました。

(3) 理事会〈平成26年2月19日：日本青年館〉

7名の役員が出席し、今年度の決算見込み並びに来年度の事業計画・予算について協議しました。

(4) 幹部役職員会議〈平成26年2月19日～20日：日本青年館〉

10会館より14名が参加し、役職員会議を開催しました。今回は栃木県青年会館と静岡県青少年会館より「会館の経営状況、公益事業活動、青年団との関わり方」等について事例報告してもらいました。翌日は日本科学未来館を視察して散会しました。

(5) 加盟青年会館一覧（平成26年4月1日現在）

一般財団法人北海道青年会館	〒060-0806	札幌市北区北六条西 6-3-1	TEL011-726-4235
一般財団法人岩手県青少年会館	〒020-0196	盛岡市みたけ 3-38-20	TEL019-641-4550
一般財団法人宮城県青年会館	〒983-0836	仙台市宮城野区幸町 4-5-1	TEL022-293-4631
一般財団法人秋田県青年会館	〒011-0905	秋田市寺内神屋敷 3-1	TEL018-880-2303
福島県青年会館	〒960-8103	福島市舟場町 3-26	TEL024-523-1484
茨城県立青少年会館	〒310-0034	水戸市緑町 1-1-18	TEL029-226-1388
(一般社団法人茨城県青少年育成協会)			
一般財団法人栃木県青年会館	〒320-0066	宇都宮市駒生 1-1-6	TEL028-624-1417
群馬県青少年会館	〒371-0044	前橋市荒牧町 2-12	TEL027-234-1131
(公益財団法人群馬県青少年育成事業団)			
一般財団法人福井県青年館	〒910-0005	福井市大手 3-11-17	TEL0776-22-5625
一般財団法人静岡県青少年会館	〒420-0068	静岡市葵区田町 1-70-1	TEL054-255-2566
一般財団法人愛知県青年会館	〒460-0008	名古屋市中区栄 1-18-8	TEL052-221-6001
一般財団法人滋賀県青年会館	〒520-0851	大津市唐橋町23-3	TEL077-537-2753
(財)奈良県青少年会館	〒630-8108	奈良市法蓮佐保山 1-3-1	TEL0742-22-5540
一般財団法人島根青年館	〒690-0033	松江市大庭町 1751-13	TEL0852-21-2818
一般財団法人岡山県青年館	〒700-0081	岡山市北区津島東 1-4-1	TEL086-254-7722
一般財団法人防長青年館	〒753-0064	山口市神田町 1-80	TEL083-923-6088
特定非営利活動法人高知県青年会館	〒781-2122	吾川郡いの町天王北 1-14	TEL088-891-5300
一般財団法人佐賀県青年会館	〒849-0923	佐賀市日の出 1-21-50	TEL0952-31-2328
一般財団法人熊本県青年会館	〒862-0950	熊本市水前寺 3-17-15	TEL096-381-6221
一般財団法人鹿児島県青年会館	〒890-0005	鹿児島市下伊敷 1-52-3	TEL099-218-1225
一般財団法人沖縄県青年会館	〒900-0033	那覇市久米 2-15-23	TEL098-864-1780

〈事務局〉

一般財団法人日本青年館 〒160-0013 新宿区霞ヶ丘町 7-1 TEL03-3475-2550

2) 全国青年団OB会総会三重大会の開催（8月30日～31日：志摩市）

1982(昭和57)年、日本青年団協議会及び日本青年館のOB・OGを中心にして、互いの情報交換、親睦、そして地域青年団の支援などを目的に全国青年団OB会が結成されました。地域コミュニティの中核を担い、地域の文字通りリーダーとして活躍するOB・OGの方々は、当初は日本青年館で総会を開催してきましたが、1988(昭和63)年からは持ち回りで地方総会を開催することとし、奈良県大会を皮切りに現在に至っています。

今年の全国青年団OB会総会三重大会には、25都道府県から162名（三重県除く）が参加しました。初日は総会において規約改正、平成26年度から4年間任期の役員を選出（会長：榎信晴氏）したほか、平成26年度は東京・日本青年館、27年度は岩手県、28年度は北海道において総会を開催することを決定しました。二日目は伊勢市に移動し、20年に一度の式年遷宮行事等に参加し、伊勢シティホテルにてお別れパーティーの後解

散しました。

3) 大九報光会の開催(11月1日: 明治神宮)

明治神宮造営に際し、全国の青年団が労力奉仕にあたり、そのことがきっかけとなって日本青年館は誕生しました。その造営の労力奉仕に参加された方々が1950(昭和25)年11月1日、明治神宮御鎮座30年祭に参加された折、そのことを記念して大九報光会を結成しました。大九は、明治神宮御鎮座の年、大正9年によるものであり、さらに耐乏生活に耐え光明と希望に生きる耐久生活にもかけて命名されたものです。以来、ほぼ毎年11月1日に、労力奉仕に参加された方の二世、三世の方々等により明治神宮において総会が開催されています。

今年も関係者10名による総会を11月1日に明治神宮において開催し、その後秋の大祭に参加しました。

4) 清溪フォーラム行政懇談会の開催(11月15日~16日: 山梨県甲斐市)

まちづくり政策や青年活動支援の方策等をお互いに情報交換しようとの目的で、平成12年に全国青年団出身市長会が、続いて平成14年に青年団OB全国町村長会が結成されました。その後平成19年6月5日に両団体の幹部が協議し、両組織を合併して「清溪フォーラム」として再スタートすることとしました。

今年度は、幹事会を6月4日に日本青年館にて開催し、今年度の行政懇談会は山梨県甲斐市で11月15日~16日に会員6名が参加し開催しました。

会員は以下の通り(敬称略)

会 長	伊藤 康志	(宮城県大崎市)		
幹 事 長	塩田 秀雄	(山形県南陽市)		
幹 事	保坂 武	(山梨県甲斐市)	石川 英明	(愛知県豊明市)
	澤崎 義敬	(富山県魚津市)	金森 勝雄	(富山県舟橋村)
監 事	大西 倉雄	(山口県長門市)		

6) 全国青年団OB県議の会の活動

平成16年に、全国の青年団への支援と地域社会の発展へ寄与することを目的として結成されました。

今年度の現役青年団活動への奨励賞は、3月9日の全国青年問題研究集会閉会式の場において沖縄県石垣市青年団協議会の「青年文化発表会」に贈呈しました。

会員名簿は以下の通り(敬称略)

会 長	内田 博長	(鳥取県)				
幹 事 長	宮本 光明	(富山県)				
幹 事	木本 利夫	(石川県)				
会 員	瀬田川栄一	(秋田県)	青山 秋男	(愛知県)	伊藤 保	(鳥取県)
	大野 久芳	(富山県)	瀬川 光之	(長崎県)		
	中野 一則	(宮崎県)	三浦 治雄	(滋賀県)	御手洗吉生	(大分県)
監 事	田中 敏幸	(福井県)				

1.1. 後援・協力事業

今年度、日本青年館が依頼を受けて後援・協力をした事業は下記のとおりです。

① 版画フォーラム2013年和紙の里ひがしちちぶ展 (平成25年5月22日)

〈主催者〉 版画フォーラム実行委員会

〈回答〉 後援名義使用、日本青年館賞提供

② 第15回全国こども民俗芸能大会 (平成25年8月17日)

〈主催者〉 公益社団法人全日本郷土芸能協会

〈回答〉 後援名義使用

③ 平成25年度青年地域活動研修会 (平成25年11月16日)

〈主催者〉 公益財団法人群馬県青少年育成事業団、群馬県青少年団体連絡協議会

〈回答〉 後援名義使用

④ 平成25年度全国青年団OB会総会三重大会 (平成25年8月30～31日)

〈主催者〉 全国青年団OB会三重大会実行委員会、三重県青年団OM会、三重県青年団協議会

〈回答〉 後援名義使用

⑤ 第39回太陽美術展 (平成25年11月16～24日)

〈主催者〉 太陽美術協会

〈回答〉 後援名義使用、日本青年館賞提供

⑥ スチューデント・ジャズフェスティバル2014東日本大会 (平成26年2月15～16日)

〈主催者〉 日本学校ジャズ教育協会東日本本部

〈回答〉 後援名義使用